

# 選 犬山市議 「ポスター」「燃料」高額請求 選挙公営費開き3倍

四月の愛知県犬山市議選で、各候補者から市選挙管理委員会に請求された選挙公営費（ポスター

費用。すべての候補者に選挙運動上、公正・公平な機会を与えることを目的とする制度。

候補者のポスター製作費、選挙カーのレンタル料や燃料費などを、一定の上限額を定めて公費負担する。候補者は業者と有償契約を結び、選挙管理委員会に届け出なければならぬ。候補者が法定得票数を得れば、当落に関係なく適用される。

作製、自動車借入、運転手雇用、自動車燃料）の合計に三倍超の開きがあったことが分かった。毎日五百メートルを走行したことに相当する高額なガソリン代を請求した候補

二に対し三十六人が立候補した。中日新聞が入手した資料によると、全候補者のうち、選挙公営費の請求額の最高は六十万円、最低は十九万円と、その差は三倍を超えた。

ポスターは掲示場の数に当たる百六十六枚の製作費用を市が負担し、上限は三十八万六千七百八十円と定められているが、満額を請求した候補者が四人いた。最低は十万円、この差も四倍近くになった。

に立派なポスターができて腕のいいカメラマンに頼んでも、三万から五万円程度に乗せられはで「高額」と証言。「高額の候補はリーフレットやダイレクトメールの製作費も含めているのでは」と首をかしげる。

選挙カーの燃料費が四万七千円と突出した候補も。ガソリンが二倍百四十円、一週当たり十キロ走るとすると、七日間の選挙期間中、毎日四百八十キロ走っていたことになり、犬山―大阪間を往復

ある候補から十二万円で作成を請け負った印刷業者は「この金額なら、デザイン費を含めて十分

していた計算になる。この候補者は「確かに燃費の悪い車だったが、ガソリンスタンドが市に請求したので、把握して

ケータイでニュースが読める  
「中日新聞・中スポ」  
モード、EZウェブ、Yahoo!ケータイのニュースメニューからアクセス  
※バーコード対応の携帯電話で読み取ってください。  
ダリ屋の割引クーポンをゲットしよう!

いなかった」として市議選で同市が負担した選挙公営費は計約千六百万円。不自然な公費負担に市内の自営業男性

（五）は「金が業者から還流されていたり、ほかに流用されていたとしたら大問題。制度上の問題もあり、上限額を見直す必要もあるのでは」と話している。

不適切設定に問題  
後房雄・名古屋大教授（行政学）の話 候補者の問題というより、非現実的で不適切な上限設定をしている行政側に問題がある。選挙の各種の実態を調査し、ルールづくりをしないと意味がない。候補者が不正をしていれば当然問題だが、根本的には選挙公営制度の仕組みに問題がある。



07. 7. 1 中日